

## 令和7年 第4回 定例会

令和7年第3回定例会以降における町政の主なものについてご報告申し上げます。  
最初に、お手元に第3回定例会以降における工事発注一覧表を配付しておりますのでご照覧ください。

次に、要望活動についてご報告申し上げます。

1 1月5日、東京都で開催された、安全・安心の道づくりを求める全国大会に出席し、防災・減災、国土強靱化、道路関係予算の確保等について決議が行われ、決議文に基づき団体役員等により道内選出の国会議員に対し要望活動が行われました。

1 1月10日から13日に、東京都で開催された、災害復旧促進全国大会、全国治水砂防促進大会に出席し、気候変動や地震・火山活動の活性化による土砂災害から人命を守るための国土強靱化予算の増額等について決議が行われ、決議文に基づき各団体役員等により道内選出の国会議員や国土交通省等に対し要望活動が行われました。

また、北海道「命のみち」づくりを求める東京大会に出席し、激甚化・頻発化する自然災害の脅威から道民の命と暮らしを守るため、高規格道路の未整備区間の早期解消や、暫定2車線区間の4車線化等について決議が行われ、決議文に基づき、北海道等とともに国土交通省や道内選出の国会議員に対し要望活動を行いました。

1 1月18日、東京都で開催された、令和8年度北海道開発予算に関する中央要請に出席し、高規格道路等道路整備の促進や、道路予算の確保等について、国土交通省やNEXCO東日本などに要望を行いました。

また、翌19日に開催された、全国町村長大会に出席し、地域経済の再生、地方の一般財源総額の確保などについて決議が行われ、大会決議に基づき、令和8年度政府予算の確保と政策の具体化について道内選出の国会議員に対し要望を行いました。

## 行政報告

はじめに、火山防災訓練についてご報告申し上げます。

本訓練は、有珠山の活動への理解を深め、噴火を想定し、職員の初動対応能力と、町民の皆さまの防災意識の向上などを目的として10月5日に開催したところです。

当日は、役場にて、災害対策本部会議を開催し、防災行政無線や携帯電話エリアメールをはじめ、集客施設へは電話による情報伝達訓練を実施するとともに、農村環境改善センターでの避難所開設、避難者の受入の手順の確認を行いました。

あわせて、壮瞥消防団による搬送、応急手当要領の訓練や、私から参加者を対象に、有珠山の噴火史とともに、総合計画等に基づくまちづくりと避難マニュアルに基づく避難行動の概要等について講話を実施しました。

町では、本訓練での成果や課題を、地域防災計画や避難マニュアル等に反映させるなど、適切な対応に活用していく考えであります。

次に、関東そうべつ会総会・懇親交流会についてご報告申し上げます。

本会は、平成9年に発足したふるさと会で、親睦と交流、情報交換を図ることなどを目的に、本年は10月25日に開催されたところです。

当日は、会員15人と、本町から10人が参加し、ふるさと壮瞥に思いを馳せながら、近況や町の活性化に向けたアイデアなどについて語り合うなど、懇親を深め、有意義な一時を過ごしました。引き続き会員の増などにご理解とご協力をお願いします。

次に、長流川（壮瞥町）水害タイムライン検討会についてご報告申し上げます。

近年、全国的に降雨災害が局地化、激甚化しており、当町においても長流川流域において、対応案件が常態化し、対策がこれまで以上に重要となっております。

タイムラインは、災害発生を想定し「いつ、誰が、何をするか」を時系列でまとめた「事前防災行動計画」ですが、北海道をはじめ、関係機関のご理解のもと、タイムラインの第一人者である、東京大学大学院 松尾一郎 客員教授をはじめ、有識者の参画を得て、11月6日に、策定に向けた検討会が発足しました。

検討会では、松尾教授による講演会や意見交換会が行われ、翌2日目には、長流川流域の現地確認が実施されたところであり、今後、継続して検討を行い、来年度の試

行を目指し、取り組む予定ですので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

次に、まちづくり懇談会についてご報告申し上げます。

まちづくり懇談会は、町政の現状をご説明し、まちづくりや身近な課題を意見交換する場として、本年度は、9月29日から10月9日まで、町内5か所で開催し、延べ54人の皆さまにご出席いただきました。

各会場では、町から「中学校の完成」、「建部改良住宅の建替」、「そうべつ情報館の拡充」、「町の財政状況」の4点についてご説明し、その後の意見交換では、多くの貴重なご意見をいただきました。

今後のまちづくりや令和8年度の予算編成の参考とさせていただくとともに、これからも町政への関心と理解を促進し、意見交換する場として、効果的で効率的な開催ができるよう努めていく所存であります。

次に、室蘭・西胆振GX推進協議会の設立についてご報告申し上げます。

11月15日に室蘭市で開催された協議会設立記念シンポジウムにおいて、室蘭港における洋上風力の製造拠点化と、西胆振地域の農林水産業や観光業等におけるGXの推進を図ることを目的に、西胆振の6市町と、商工会議所及び商工会、並びに室蘭港湾振興会で構成する室蘭・西胆振GX推進協議会が設立されました。

今後、本協議会構成団体が力を合わせ、GX関連産業の発展を通じて、住民の皆さまが幸せを実感できる地域づくりに取り組んでまいり所存であります。

次に、本年の農作物の作柄についてご報告申し上げます。

水稲は、6月中旬から気温が上昇し、この高温傾向は10月上旬まで続き、品質の低下が懸念されましたが、適切な栽培管理により、品質は良好で、収量は平年並みとなりました。

小麦は、春先に病気の発生が散見され、また6月中旬以降の高温、少雨の影響で、生育が急激に進み、細麦（さいばく）傾向となり、収量は平年を下回りました。

果樹に関しては、桜桃は、開花時期が好天に恵まれたこともあり、結実量は平年に比べ1割程度増え、収量は平年より多くなりましたが、高温により一部果実の着色遅

れや日焼けが見られました。

りんごは、周期的な降雨もあり、結実、着果ともに平年より多くなりましたが、鹿や鳥などによる食害が見られ、また品種によっては小玉傾向にあり、収量は平年並みとなりました。

ぶどうは、開花以降の高温による着色不良や降雨による病気の発生が見られましたが、果実肥大は順調に進み、前年並みの収量が確保できました。

野菜に関しては、全般的に収量、品質ともに、概ね平年並みとなりましたが、馬鈴薯や玉ねぎは、高温の影響もあり、病気の発生が見られ、また生育は徐々に緩慢となり、小玉傾向で、収量は平年を下回りました。

てん菜は、春先の降雨により播種や定植が遅れ、生育への影響が心配されましたが、生育は平年並みに推移しました。6月上旬以降、病気の発生が散見され、収量は平年並みとなったものの、糖度は低い傾向となりました。

近年、当町では大きな自然災害もなく推移しているものの、高温による農作物の生育への影響や、鳥獣被害も深刻化しており、引き続き、生産者の皆さまや関係機関、団体の皆さまと連携を図りながら、効果的な対策を検討してまいります。

次に、第49回そうべつりんごまつりについてご報告申し上げます。

町の知名度向上や、新たな来訪者の獲得を図るため、アニメキャラクターの木下ひなたさんを壮瞥町りんご大使に迎え、果樹園等を巡るスタンプラリー形式による「りんごめぐり」が、10月10日から11月16日まで開催されました。

期間中は、道内外から多くの方々にご参加いただき、抽選には前年より41人多い711人の応募がありました。

「りんごめぐり」を開催してから3年目を迎え、新たな取り組みとして、10月19日に道の駅に隣接する広場で「物産市」が開催されました。

当日は、実行委員会の構成団体による、お米やりんご、野菜などの農作物や軽食の販売が行われたほか、壮瞥中学校、吹奏楽部によるミニコンサートも開催され、多くの方々にご来場いただきました。

また、「りんごめぐり」にご参加いただいた方々の中には、町内で宿泊や飲食をさ

れた方もおり、加えて、ふるさと納税で応援いただいた方もいるなど、一定の経済波及効果があったものと考えております。

今後、実行委員会で、節目となる来年の第50回そうべつりんごまつりの開催について、検討がなされるものと認識しておりますが、町としましては、りんごまつりが発展を遂げながら持続的に開催できるよう引き続き支援してまいります。

次に、観光客の入込状況についてご報告申し上げます。

本年4月から9月まで、上期の観光入込客数は、102万人で、昨年同時期に比べ、98.9%と、わずかな減少となりましたが、その要因としましては、7月から9月にかけて、新千歳空港の国際線の一部運休や、猛暑、物価高、燃料高による国内需要の手控え等によるものと分析いたしております。

町では周辺市町や観光協会等と連携し、東アジアの旅行関係者にセールスを展開するほか、国や道の有利な財源を活用し更なる入込増を図ってまいる考えです。

次に、教育旅行誘致トッププロモーションについてご報告申し上げます。

この事業は、北海道胆振総合振興局が主催し、11月26日からの2日間、青森県弘前市で開催されたもので、出席した学校や教育委員会、旅行会社など約30人に対して、胆振総合振興局、西胆振3市3町に加え、フェリー会社の代表らが、地域の魅力についてトップセールスを実施しました。

当町においては、主要な観光施設と火山マイスターやジオツアーのPRに加え、弘前市長や校長会役員との意見交換で、情報提供の重要性と手応えを感じたところであり、今後も、継続して広域連携のもとで誘客に努めてまいる考えです。

次に、フィンランド国ケミヤルヴィ市、訪問団来訪についてご報告申し上げます。

10月13日から16日までの4日間、ケミヤルヴィ市から、市長をはじめ、市議会第二副議長及び市担当者を含む大人6人、学生17人の計23人が8年ぶりに来町されました。

滞在中は、小中学校での歓迎交流会や町内視察などが実施され、両校長と、ケミヤルヴィ市長等との意見交換では、児童・生徒同士の交流など新たな交流について、前向きに検討していくことが確認されました。

また、14日に実施された、ケミヤルヴィ市長、第二副議長とのトップ会談では、森議長にもご参加いただきましたが、交流の歴史を踏まえ、友好都市提携書で掲げられている「教育、文化、産業の分野における交流」に基づき、友好と交流を深める事業について、継続して検討していくことが確認されたところです。

来訪されたケミヤルヴィ市長をはじめ訪問団の皆さまと、ホームステイや交流事業にご協力、ご参加いただいた町民の皆さまに心から感謝を申し上げますとともに、今回の来訪を契機に、双方の友好と交流が深まることを期待しております。

次に、国の事業概要について、ご報告申し上げます。

一般国道453号蟠溪道路は、落石、土砂崩落等の通行規制区間、現道の線形不良および狹隘区間の解消を図り、道路の安全な通行の確保を目的とし、平成13年度に事業化され、延長5.4キロメートルの道路改築事業が進められてきました。

現在は、国道の現蟠溪橋から上久保内までの第3工区において、道路改良舗装工事や新蟠溪橋の工事が進められており、今年度中には2.2キロメートルが完成し、供用開始される予定であると承知しております。

これにより、全ての区間で、安全な通行が確保されるとともに、広域的な周遊観光の活性化等、地域産業の振興にも寄与するものと期待するところであります。

次に、北海道の事業概要になりますが、（仮称）有珠山外環状線を構成する町道上立香第2線の道道昇格に伴う道路改築事業につきましては、上立香橋の老朽化に伴う架け替えに必要な仮橋が完成し、現在は旧橋（現在の橋）の撤去工事が進められており、来年度も引き続き撤去工事が行われる予定と承知しております。

本事業とともに、東湖畔地区における懸案区間解消の事業化に加え、道道洞爺湖登別線のサンパレス工区の早期完成など、要望活動を継続していく所存であります。

以上、令和7年第3回定例会以降における町政の主なものについてご報告といたします。